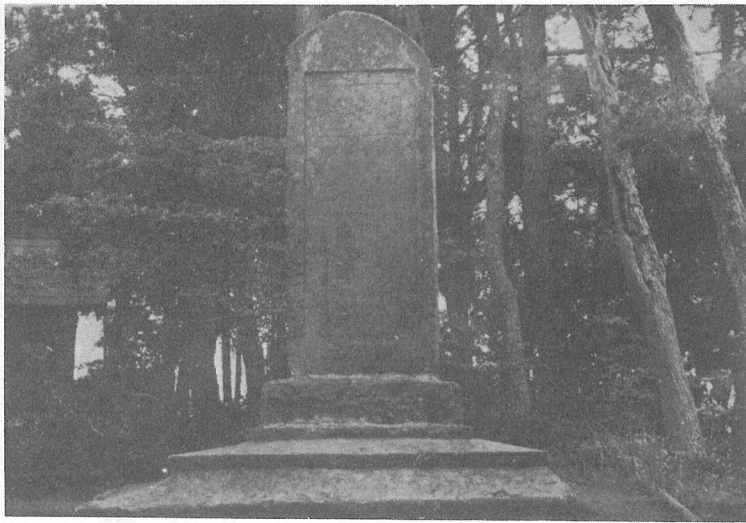


横芝の碑 (その十二) 鳥喰沼開墾の碑



鳥喰沼部落を松尾方面に縦断する舗装道路は、その昔色川某という技師の設計監督によるもので、俗に色川道路と呼んでいます。この道路の始まる一号用水路の分岐点から約一キロメートル入った四ツ

角を左に曲ったすぐ左手は小さい社で、その境内には簡素な社殿と対照的な位、立派な碑が建っています。これが鳥喰沼開墾史を伝える碑です。

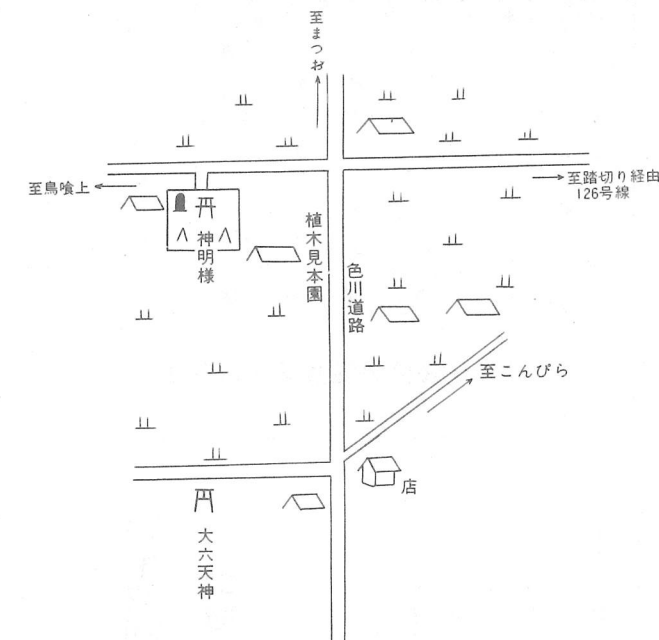
「鳥喰沼開墾碑」という題字も苔蒸して長い歲月を物語っているその下には、

「元千葉県知事從四位勲三等告森良題字、山武郡ノ東方ニ一大沼アリ鳥喰ト云フ、面積二百三十六町歩、横芝、松尾、大平に跨リ九百餘町歩ニ灌漑ス、然レトモ逐次泥土堆積水量減退シテ水利便ナラズ、是ニ依リテ沼ノ上下紛争常ニ絶エス元録二年幕府ニ訴ヘ、水下部落遂ニ用水ノ權ヲ得タリ、爾來數次開墾ヲ企テ成ラス、維新ノ始松尾藩亦之ヲ計リテ就ラス、後水路開墾ノ紛争頻リニ起ル、識者之ヲ優ヘ整地開墾ノ議ヲ決シ明治四十四年山武郡東部聯合耕地整理組合同組織セリ、此ノ地域本沼ヲ包有スル横芝、松尾、大平、上堺、蓮

沼ノ二千九百餘町歩ニ連リソノ工費子算実ニ二十九万金ト称ス、翌四十五年工ヲ起シ、大正二年七月竣ル、而シテ栗山河畔別ニ揚水機ヲ設ケ水道ヲ墾チ水利ニ備フ、於是沮如化シテ美田トナリ、紛争変シテ謳吟トナリ、民庶咸其ノ慶ニ浴ス、因リテ此ノ年穫ル所ノ新穀ヲ皇室及大廟ニ奉獻シ以テ天恩神德ニ報ユルノ微忱ヲ致セリ、今之ヲ石ニ勤シテ不朽ニ伝ヘントシ文ヲ余ニ請フ乃之ヲ叙ス
大正三年十二月
千葉県技師從五位勲四等
古賀孝久 撰 と刻ま

一郎さんが自分の金で建てたものですよ、勿論土地も市原さんのですよ、その頃この辺り一面は荎草や葎の沼と、芝草ばかりの土地でね、勿論田圃なんかありませんよ、荎草と荎草庭がその頃の農家の収入源にもなっていたんです、収入源と云えば沼ではいぬん葉が採れました。それから市原宗一郎さんが芝池を三尺巾位に切り開いて松を植えたところ、その根元に初芽が沢山生えましてね、いぬん葉と初芽は農家の副収入にもなったものです。沼の開墾は古い話です。鳥喰沼田を流れる用水が開通したのを見物に行った日に、明治天皇がおかぐれになったという号外が出たのを子供心に覚えて、いますよ、この神明様は碑よりずっと後に建てたものです。他では神社の境内へ碑を建てるのが普通ですが此々では碑の空地へ神社を建てたという訳で少し事情が異なっていると云えますね。」と当時をかみしめるように話してくれる戸村さんの温顔には開墾当時の過ぎた想い出が髣髴と甦っているように見えました。

(給食センター小沢所長寄稿)



孝久、他佐久間弥三郎、本間重吉等各氏の氏名、又当時の役員として、山武郡長竹内錠之助、他地元役員として、北田佐四郎、市原宗一郎の各氏他の氏名が刻まれています。写真はその碑で、この横が沼の氏神である神明様です。碑文を写していると「広報の材料かね」と肩を叩かれたので振り返ると沼の有識者である戸村日吉さんでした。そして「この石は鳥喰下の市原宗

